

<b>授業科目名</b>	歴史文化ツーリズム実践研究Ⅰ・Ⅱ		<b>担当教員名</b>	蝦名 大助		
<b>コース名</b>	文化・自然ツーリズムコース					
<b>科目区分</b>		<b>単位</b>	<b>配当年次</b>	<b>実施時期</b>	<b>曜日・時限</b>	<b>形態</b>
コース別専門科目	選択必修	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	3	Ⅰ：春学期 Ⅱ：秋学期	木・4	講義
<b>授業概要</b>						
近畿圏の歴史文化遺産について、観光資源という観点から調査をします。						
<b>到達目標</b>						
基礎的な調査・研究能力を身につけることです。資料を批判的に読む力、調査手法、データを分析しまとめる力、を身につけることを目指します。						
<b>授業方法(展開)</b>						
いわゆるゼミ形式です。教員からの一方的な講義ではなく、学生主体の討論や発表が中心になります。						
<b>関連科目・知識・スキル</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年次に開講される「総合研究Ⅰ・Ⅱ」に接続します。</li> <li>・歴史文化ツーリズム コース別専門科目を2科目以上履修することが望ましいです。</li> <li>・基本的なPC運用の知識（特にMicrosoft Office）を求めます。</li> </ul>						
<b>成績評価</b>						
授業への取り組みにより総合的に評価します。						
<b>教科書・参考書など</b>						
適宜・授業中に指示します。						
<b>履修上の注意事項</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・このゼミを希望する学生には面接を実施します。希望者は都合の良い時間に教員オフィスを訪ねて、<u>必ず面接を受けてください。</u></li> <li>・現地調査（学外教育）は基本的には学外教育補助の枠内で行なう予定ですが、それを超える負担が発生する可能性もあります。ただし、調査は原則として近畿圏で日帰りで行なう予定ですので、大きな負担が発生することはありません。</li> <li>・連絡などでPCメールを使うことが多くなりますので、注意してください。</li> </ul>						

## 授業の柱(単元)と授業スケジュール

おおまかにいって、以下のような流れを想定しています。1 Semesterで1つのテーマを扱う予定です。

(1) オリエンテーション (1 講目)

(2) 文献探索、収集

(3) 文献講読

(4) 調査表作成

(5) 現地調査 (学外教育)

(中間のまとめ)

(再調査 (学外教育))

(6) まとめ、レポート作成

(7) 歴史文化コース全体の報告会 (15 講目)

・調査を進めていく中で、個人が興味を持つテーマを見つけてもらい、総合研究につなげていきます。秋学期 12 月ごろには、卒論のおおまかなテーマを決めてもらいます。

・調査地は、基本的には近畿圏内を予定していますが、履修者の希望もある程度考慮するつもりです。

【参考】2009 年度の調査内容：姫路城見学と観光客へのアンケート調査 (交換留学生と共に)  
神戸南京町における街並み調査

・1 Semesterで数回程度、他の実践研究クラス (歴史文化) と合同ゼミを行なう予定です。

## 学生への一言

実践研究・総合研究の2年間をとおして、自発的な問題発見・解決能力を身につけてもらいたいと思います。この授業では、そのための基本的なスキルを中心に扱います。能動的に問題に取り組める学生の履修を望みます。

授業科目名	歴史文化ツーリズム実践研究Ⅰ・Ⅱ		担当教員名	高根沢 均		
コース名	文化・自然ツーリズムコース					
科目区分		単位	配当年次	実施時期	曜日・時限	形態
コース別専門科目	選択必修	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	3	Ⅰ：春学期 Ⅱ：秋学期	木・4	講義
<b>授業概要</b> 観光における文化遺産の持続的活用をテーマとし、観光という多大な影響力を持つ現象のなかで歴史や文化・伝統をどのように受け継ぎ、伝えていくことができるかを考える。						
<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ツーリズムにおける地域の歴史や文化の重要性を理解する。</li> <li>・ 問題点を明確にし、具体的な方策を考える力を身につける。</li> </ul>						
<b>授業の運営方法</b> ゼミ方式を採用する。 共通のテーマを設定し、全員で調査・議論を行う。 また、後半は進行状況に合わせて下位テーマを設定し、グループに分けて調査・議論を行い、最終的な報告書を作成する。						
<b>関連科目・知識・スキル</b> 2年次までに文化遺産論を履修していることが望ましい。 また並行して文化遺産活用論、世界遺産ツーリズム論を履修することが望ましい。						
<b>成績評価</b> 討議への取り組みの姿勢、自分の発表の充実度を総合的に評価する。						
<b>教科書・参考書など</b> 設定したテーマに沿って講義で指示する。						
<b>履修上の注意事項</b> ゼミでは世界遺産を含め海外事例も扱うため、英語論文を読むこともある。 実際に現地を訪問するフィールドワークを予定している。費用については、大学からの補助金を超える分については自己負担となるので要注意。 文化や歴史に強い関心のある者のみ希望してください。 <u>履修希望を出す前に、必ず一度オフィスにおいて面談を申し出ること。</u>						

## 授業スケジュール

○大枠のテーマ

- ・文化遺産（有形・無形にこだわらない）の活用と継承
- ・文化遺産に対する観光現象の影響

○対象地域

- ・京阪神地域だけでなく、国内全域。
- ・海外事例でもかまわない。その場合、外国語論文を読むことが必須となる。

春学期：クラスでテーマを決めて取り組む。

第1回：オリエンテーション

春学期のテーマについて説明する。

第2～4回：テーマに関連する情報収集

第5回：第1回フィールドワークの実施（具体的な日時は講義内で決定）

第6～10回：各自で分担した調査項目の報告

第11回：第2回フィールドワークの実施（具体的な日時は講義内で決定）

第12～14回：全体の取りまとめ

第15回：歴史文化コース内で報告会

秋学期：グループでテーマを決めて取り組む。

第1回：オリエンテーション

春学期を振り返り、テーマ設定・調査手順の確認をする。

第2～3回：各グループのテーマ設定

第4～14回：それぞれがテーマについて順次調査を行い、ゼミで報告・討議を行う。

第7回、第10回で2回のフィールドワークを実施する（具体的な日時は講義内で決定）。

必要のないグループは学内で作業。

第15回：歴史文化コース内で報告。

※上記のスケジュールのなかで、セメスターごとに数回の歴史文化コース合同ゼミを行い、各クラスの報告を行う。

## 履修希望者へのメッセージ

歴史と文化に幅広い関心のある学生を望む。

多様な歴史や文化をどのように現在に活かし、将来に伝えていくかという問題は、必ずほとんど全ての観光産業に関ってくる。広い視野で問題意識を持ち、取り組む姿勢を持って欲しい。

<b>授業科目名</b>		歴史文化ツーリズム実践研究Ⅰ・Ⅱ		<b>担当教員名</b>	小磯 学	
<b>コース名</b>		文化・自然ツーリズムコース				
<b>科目区分</b>		<b>単位</b>	<b>配当年次</b>	<b>実施時期</b>	<b>曜日・時限</b>	<b>形態</b>
コース別専門科目	選択必修	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	3	Ⅰ：春学期 Ⅱ：秋学期	木・4	講義
<p><b>授業概要：</b>神戸の特色のひとつである「国際性」や在地の外国文化（例：宗教施設など）について具体的事例・内容を取材を通して学び、観光資源としてのデータづくりとともに、可能なツアーの構築について考察する。また「総合研究Ⅰ・Ⅱ」で実施する卒業論文の製作準備として位置づける。</p>						
<p><b>到達目標</b></p> <p>神戸の外国文化の奥深さを知り、その観光資源としての可能性を探る。また、未知のものへの好奇心、取材を通じて情報を収集する行動力、新たな企画立案などの創造力の育成。卒業論文の準備。</p>						
<p><b>授業方法(展開)</b></p> <p>神戸にある外国文化の諸施設への取材（フィールドワーク）、こうした施設や宗教などについての論文購読、卒業論文製作に向けてのデータ収集と総括作業。</p>						
<p><b>関連科目・知識・スキル</b></p> <p>4年次開講の「総合研究Ⅰ・Ⅱ」とセットで履修することになり、途中変更は認めない。</p>						
<p><b>成績評価</b></p> <p>受講態度、取材に対する行動力、報告書作成、発表会でのプレゼンテーションなどを考慮して評価する。</p>						
<p><b>教科書・参考書など</b></p> <p>神戸の外国文化、及び各自のテーマに関する諸論考。</p>						
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の文化（生活習慣や祭り、食事、宗教等）についての興味をもつことが前提となる。</li> <li>・フィールドワークについては、1セメスターにつき各自 2500 円の学外教育補助がありますが、これを超過する場合には各自での負担となります。あらかじめ了承下さい（神戸市内の外国文化関連施設・宗教施設などへの移動費など）。</li> <li>・多少の英語会話能力が必要な場合があります。</li> </ul>						

## 授業の柱(単元)と授業スケジュール

テーマ：神戸の外国文化・国際性を探る

取材対象の例：

- ・「国際性」を促した産業、またそれと関わった諸外国・人々  
(異人館を建てた人々の背景、真珠産業、ブラジル移民とコーヒーとの関わりなど)
- ・宗教施設(イスラーム教モスク、インド・ジャイナ教寺院、シク教寺院、キリスト教教会など)、宗教行事、神戸在住の諸外国の人々の文化、生活習慣、民族音楽、エスニックレストラン、多文化多言語コミュニティ放送局 FM わいわいの活動など。
- ・在神戸の各国クラブや神戸国際協力交流センター、神戸市立中央図書館、市役所など。

### 春学期

- 1回：オリエンテーション
- 2～3回：各自あるいはグループごとのテーマの設定
- 4～5回：現地取材の実施・情報収集作業、アンケート作り
- 6回：本学・神戸市内図書館などでの情報収集作業
- 7回：ゲスト講師による事例・現状報告
- 8回：現地取材の実施
- 9～14回：論考購読、及び収集した情報の総括作業
- 15回：歴史文化コース全体での発表報告会

### 秋学期

- 1回：夏季休暇中の作業報告発表会
- 2回：テーマ内容の調整
- 3回：現地取材の実施
- 4回：図書館での情報収集作業
- 5～9回：論考購読、情報の総括作業
- 10回：現地取材の実施
- 11～14回：情報の総括作業(報告書作成)
- 15回：歴史文化コース全体での発表報告会

★選択したテーマによっては、履修者全員での文献購読を実施する場合もある。

★各セメスターに1, 2 数回程度、歴史文化コース合同での研究報告会を予定。

### 学生への一言

「神戸の外国文化については神戸夙川学院大学に聞け」と言われるような、データベースの蓄積を図っていきたいと思います。